

電機ジャーナル

DENKI JOURNAL

秋号
vol.257

新旧 委員長対談

特集①
変える勇気、
受け継ぐ覚悟



JIMBO MASASHI × TAKAHIRO NONAKA

特集②

2020・2021年度

電機連合役員体制 ~本部役員のONとOFF~

New Member

遠藤科学労働組合

エルナープリンテッドサーキット労働組合

輝く電機の仲間たち

ICTで未来の農業をつくる

効率的で持続可能な生産をめざして

特集①
新旧委員長対談

変える勇気、
受け継ぐ覚悟

JIMBO MASASHI

神保政史

TAKAHIRO NONAKA



野中孝泰

「電機連合中央執行委員長」。電機産業で働く者の代表として、約57万人の組合員を牽引する役目。その委員長としての役目を4年間にわたり果たしてきた野中孝泰が2020年7月に退きました。後を継ぐのは、野中体制を書記長として支えてきた神保政史。ともに産別運動に励んできた歩みを振り返りながら、新旧委員長は何をバトンし、これから電機連合にどのような将来像を描いていくのか、語っていただきました。

丁寧な対話こそが 電機連合の魅力 コロナ禍でも それを大切に

野中 本日は8月3日。何か不思議なめぐり合わせを感じています。私も4年前、元委員長の有野さんと今回とは逆の立場で対談をしたんですね。そのことを懐かしく思い、今朝その日の

日記を見返してみると、対談日が今日とまったく同じ日付でした。あの日、有野さんの思いをお聞きし、改めて歴史と伝統のある電機連合の中央執行委員長としてのバトンを引き継いだのだと実感しました。さて、神保さんが委員長に就任されて早いもので3週間が経ちました。まず今の心境はいかがですか？

神保 まだ委員長としては右も左もわからない状態です。早く慣れようと全力で取り組んでいますが、例年と違い、このコロナ禍で手探りのところがあります。特になかなか人と会えないのは辛いですね。

野中 まさに今回の大会で一つ残念だと思ったのは、せっかく新しい体制が生まれたのに、きちんとみんなの前でお披露目をできなかつたことです。も

ちろん加盟組合役員の皆さんには、神保さんの顔も名前も人柄も知っている人が多いでしょう。それでも、電機連合に集う仲間の皆さんにとって、「このリーダーのもと、みんなで新たにスタートする」という実感がほしかったはずです。これまで直接人と会い、神保さんの思いを対面で浸透することができましたが、今はそれが難しい。

神保 電機連合でも史上初となるオンラインでの大会でしたからね。加盟組合の大会も、多くはオンラインや書面での開催でした。例年なら、加盟組合の大会に伺い、私の思いを対面でお伝えできますし、各組合の雰囲気も肌で感じ取れるのですが……。でもこれらは、コロナ前の世界には完全には戻れないことを前提に、ウイズコロナ・アフターコロナの社会像を考えていかなければなりません。今の状況をイレギュラーと捉えていてはダメでしょうね。これが常態として働き方や暮らし方が変わっていきます。我々労働組合の活動手法もえていかなければなりません。我々はFace to Face

という言葉をよく使いますが、それは面と向かって直接会うことだけではありません。オンラインというツールに変わったとしても、生きたコミュニケーションはとれるはずですから。→

良いところですから。そのDNAを守るために、現状をどう捉え進めていくのか、知恵の絞りどころです。

野中 その通りですね。見方を変えると「オンラインだからこそ良さ」もあるかもしれません。今大会の参加者からも前向きな意見を聞きました。「電機連合のこれまでの大会は、大きな会場の舞台上に役員がいて、代議員席からは遠い。だから役員が遠い存在に感じていた。でも、今回のオンライン大会では、画面上では1対1。逆に身近に感じた」と。これは禍転じて福となのですでないでしょうか。「みんなで話し合って、みんなで決めて、みんなで取り組む」、それが電機連合の本当に良いところですから。そのDNAを守るために、現状をどう捉え進めていくのか、知恵の絞りどころです。



だつた頃です。一緒に「産別統一闘争強化プロジェクト」を作りましたよね。あのプロジェクトはとても印象的でした。メンバーは各加盟組合のトップであり、そして「50年以上続いている統一闘争、果たしてそれは是か非か」という根本的な問い合わせからスタートしましたからね。

神保 プロジェクトが発足した当時は長らくベースアップができず、賃金体系の維持が精いっぱいでした。もちろん賃金体系維持には意義がありますが、それで本当に統一闘争として良い結果を生み出せているのか、統一闘争そのものに対する疑念も出てきています。

神保 丁寧な対話を重ねて合意形成をしていく、それが電機連合の良さですよね。これがあるからこそ統一闘争や多くの活動が成り立ちます。形は変われど前向きに捉え、今後も対話を大事にしていきたいと思います。

野中 中堅・中小労組から見ても、中闘組合が賃上げしてくれないと動きづらいという実情もありますからね。当時は統一闘争に対する課題が山積みでした。しかし、多くの闘達な論議を重ねるなかで、各組織の違いを認め合いながらも、電機連合統一闘争に結集し、強化をしていくこうという話になりました。そして、中闘組合が賃金体系維持だとしても、それを超えていける仕組みを作ろうと意見がまとまり、産

別内の格差改善を狙いに、電機連合統一闘争に2つの領域、「何としても守るべき領域」と「各組合が業績や待遇割と責任の発揮が社会からも期待されている」と思っています。

野中 固い信頼関係があるからこそ作ることができ、今も継続できていると思います。だからこそ、我々はその信頼関係を守っていかなければなりません。また電機労使の信頼関係によつて成り立っているからこそ、統一闘争は日本の賃金相場形成における社会的役割と責任の発揮が社会からも期待されています。

産別統一闘争強化プロジェクトで改めて感じた 電機連合の結束

野中 過去を少し振り返りましょう。

6年前。私が電機連合の書記長で、神保さんは三菱電機労働組合の委員長

でしたね。この指標ができたからこそ、統一闘争における賃金改善交渉時だけではなく、自組織が今どんなポジションに立っているのかを捉え、中期的に長期的に戦略を立てることができます。このような指標を作成できているのは、数ある産別のなかでもあまりないのではないかと思うか。

実態をふまえ、主体的に処遇改善に取り組む領域」を設けて進めるという考え方で整理しました。またそのことを支援するために新たに「ベンチマーク指標」と「政策指標」を作り出すことができました。

先輩方が受け継いできた電機連合の大きな財産

野中

こうして統一闘争強化プロジェクトで新たな統一闘争の仕組みを作りました。そして実際に、それまでは賃金体系維持が続いていたものを、ベースアップへとフェーズチェンジしていました。今では賃上げの流れが定着していますが、それまで長らく賃金体系維持だったところから賃上げに移行するのは大変でしたね。

神保

当時は数年ぶりの賃金水準改善のため、一つひとつ丁寧に交渉を進めた記憶があります。それでも、当時の頑張りがあったからこそ、今年で7年連続となる賃金水準改善につながっています。

野中 幸い私が委員長を務めた4年間は賃上げを継続できましたが、それは中闘組合や拡大中闘組合、地闘・地区闘の皆さんの信頼と協力があつたからこそでした。加えて、各加盟組合労使の揺るぎない信頼関係があつたからであります。これも電機連合の特色です。

働き方が変わつても変わらないもの

野中

せつかくですから思い出話をもう一つ。神保さんが電機連合の書記長となり共に統一闘争に取り組んだときのことです。長時間労働のは正が社会的な話題になり、電機産業労使として内外にメッセージを出しましたね。

神保 労使関係は短期間で構築できるものではありませんからね。先輩方が積み重ねてきたものがあればこそです。

2017年の「長時間労働のは正をはじめとする働き方改革に向けた電機産業労使共同宣言」です。あの時は、神



野中 孝泰
【のなか たかひろ】

1991年	松下電器産業労働組合乾電池支部 執行委員
1993年	松下電器産業労働組合乾電池支部 書記長
1994年	松下電器産業労働組合電池連合支部 書記長
1998年	松下電器産業労働組合電池連合支部 執行委員長
2006年	松下電器労働組合連合会 (現パナソニックグループ労働組合連合会) 副中央執行委員長
2010年	電機連合 副中央執行委員長
2014年	電機連合 書記長
2016年	電機連合 中央執行委員長
2020年7月	電機連合 福祉共済センター 理事長

合意に至りました。そして、それを実現できるのは電機産業労使であり、実際にあたっても電機産業の技術が活かせるだらうとなり、共同宣言に至つたのです。今は、あの時に判断した野中さんは立派だったと思つています。その判断があつたからこそ働き方改革が進み、このコロナ禍でも混乱を最小限にできているのではないでしょうか。

野中 神保さんには、いろいろと無理をお願いしてきましたね（笑）。でも、我々には社会に対する責任を果たす大きな使命があります。これからもいろいろな問題が発生するでしょう。例えば今、コロナ禍で組合員の働き方が変化しています。在宅勤務では朝から晩まで職場にいる必要がなくなり、副業、兼業を考える人も出てくると思います。クラウドワーカーと呼ばれる個人事業主的な仕事をする人たちも増えていきます。組合員の個の働き方が進むと、労働組合の位置づけは何なのかという疑念も湧いてくるかもしれません。でも、形は変われど労働者であることは不变です。神保さんには、常に働く者の視点での運動を、新体制の中でより極め、追求してほしいです。

今こそ求められる 職場目線の組織内議員

神保 まじめに働く者が報われる社会を築くためにも、今後、産別や連合、あるいは社会全体をどう巻き込んでいくか。電機連合としての強い発信力も求められますね。

野中 それには仲間づくりはもちろん、政治活動も大切です。我々が政策を実現するためには、国政にどれだけ組合員の声を届けられるかがカギになります。その最も太いチャネルが組織内議員で、そこに我々の政治に対する考え方や思いが集約されます。

野中 コロナ禍で、政治が私たちの雇用や生活にとても密接に関係しているとすべての国民が感じたはずです。やっぱり政治に関心を持って関与しな



神保 政史
[じんば まさし]

2002年8月 三菱電機関連労働組合連合会 事務局長
2003年8月 三菱電機労働組合 中央書記長
2008年8月 三菱電機労働組合 中央副執行委員長
2010年8月 三菱電機労働組合 中央執行委員長
三菱電機関連労働組合連合会 会長
2014年7月 電機連合 副中央執行委員長
2016年7月 電機連合 書記長
2020年7月 電機連合 中央執行委員長

さんの切実な声でした。小さくて聞き流されがちな声だったかもしれません。が、矢田わか子さんはきちんと受けとめた。同じく組織内議員の浅野さとしも、マスク不足が深刻化していたあるいは社会全体をどう巻き込んでいくか。電機連合としての強い発信力も協力する企業への補助金拡充を求ました。その結果、補助金の上限を大幅に引き上げるとの明確な答弁を経済産業大臣から引き出しました。そういうことがもつと出てきてほしいですね。

ければと思った人も増えたでしょう。このようなときだからこそ、電機連合の議員がどれだけ職場目線のことを国で発言し実現しようとしているか伝え、組合員も参加しているという実感がより湧くようにしてあげてください。



神保 コロナ禍で、組織内議員の矢田さんが一人の妊婦の組合員の声を取り上げました。それは感染リスクにおびえながら決死の覚悟で通勤し働く妊婦

重責に真っ向から

向き合い、 覚悟を持つて 取り組んでいく

神保 皆さんご存じのように、野中さんは情に厚く、その一言一言に熱い血が通っています。本当に丁寧なコミュニケーションを心がけていらっしゃいますよね。私は、何よりもまずそこを見習いたいと思っています。丁寧なコミュニケーションと口で言うのは簡単ですが実行するとなると大変です。人

は皆さままざまな感情を持っていますし、信頼関係を築くには時間もかかります。先ほど「みんなで話ををして、みんなで決めて、決めた結論はみんなでやろう」とお話をされました。本当にそれを実践されたてきた方です。

野中 神保さんがそう見てくれていたのはうれしいですね。実は私のその考え方のベースにあるのは出身組織での委員長時代の経験なんです。2000年のことですが、会社が赤字になり、事業所や拠点の閉鎖を余儀なくされました。そうなるとおよそ千人が路頭に迷

持続可能な社会の形を作ることが私たちの使命。

うことになってしまいます。だつたら私たちが処遇を抑え、時間を少しでも稼ぐことができれば、その間に次なる手立てが考えられるんじやないか。そういう考え方、組合として緊急対策案を打ち出しました。それを実現するためには職場に理解いただかなければなりませんから、60ほどの職場を毎日まわり、4ヵ月かけて全職場の組合員との対話をやり切りました。そのとき、経営者がいかにきれいな構造改革の絵を描いても、職場の思いが伴っていなければ絶対に実現はできないと、心から感じたのです。

この経験があつたので、電機連合の委員長となつたとき、約57万人いる大組織でも、全員に会つて呼びかけられれば運動体として一つになれる信じていきました。一度会い話し合えば、仲間として感じてくれるものです。もちろん良いことばかりではなく悪いことも含めて話す必要があります。そこで初めて信頼が生まれるし、それを言えるのも電機連合の良さだと思うのです。歴代の委員長は皆、私利私欲ではなく、

電機産業をはじめとするすべての働く人のために力を尽くしてきました。神

**組合員一人ひとりが
安心して生活できる社会をめざす。**

年の付き合いを通じて私は確信しています。

神保

ありがとうございます。このコロナ禍で産業、社会、労働と、新しい政策がいろいろ生まれてくるでしょう。またそれに対応して技術革新は加速していくます。その状況を電機産業の発展にどうつなげていくか。持続可能な社会の構築にどうつなげていくか。そして、組合員一人ひとりが将来にわたって安心して生活できるにはどうすべきか。どのような変化が訪れても、これを中心に据えて活動していきたいと思います。

私は、野中委員長のもとで書記長を務め、委員長としての重責を垣間見ています。ただ、見て感じることと、その立場になり感じることは違うのでしょうか。それでもその重責に真っ向から向き合い、覚悟を持って取り組んでいかなければ、この職責は果たせない、その気持ちだけは持つております。

野中

それを聞いて安心しました。これからは、存分に神保流を發揮してください。楽しみにしていますよ。



次のページでは、退任された役員と新たに電機連合勤務になった役員を紹介します。